

改訂学習指導要領は 子どもたちをどう変えようとしているのか 改訂学習指導要領と教科書問題

今年の夏、全国の市町村教育委員会で、1年遅れで検定合格した「自由社」版をふくめた中学校歴史教科書の「採択替え」の手続きが行われました。各市町村教委は結果的に現行教科書を採択したものの、教委事務局や現場教員に無用の負担を強いる結果になりました。



国会では自民・維新の議員が中高教科書の「従軍慰安婦」の記述を敵視する質問を執拗に繰り返し、文科省は5月に教科書会社を対象に臨時の「説明会」を開催し、修正を強く求めました。その結果、中高の教科書29点の修正申請が行われ、「従軍」「強制連行」などの文言がなくなりました。また、新指導要領では高校国語の「実用性」を高めるとして、新科目「現代の国語」では文学教材を扱わないとするなど、国語教育が大きく変質させられようとしています（今年夏の検定では、文科省の事前の説明に反して小説を多く載せた教科書を合格させるなど、混乱も起こっています）。

これらの経過を確認し、高校教科書採択の問題点と中学校教科書も含めた今後の課題について、学習し交流しましょう。（感染防止のため入場時のマスク着用や手指消毒にご協力ください。）

日時： **2021年11月23日(火休)1:30～4:30**

場所： **京都教育文化センター302号室**

講演：「いま教科書で何が起きているか？歴史・国語
～学習指導要領の改悪の下で～」

講師： **鈴木 敏夫 さん**（子どもと教科書全国ネット21
事務局長）



*** 学校現場からの報告 * 意見交流**

* オンライン参加を希望される方は kyobun@kyokyo.jp に氏名・所属等を明記してお申し込みください。

資料代：500円
(学生無料)

主催：京都教科書問題連絡会（「子どもと教科書京都ネット21」など）・
京都教育センター・新日本婦人の会京都府本部・
京都退職教職員の会・京都教職員組合
(連絡先：京都教職員組合 075-752-0011)